

眞板雅文 | 水の旅

身近な素材で様々な表現を展開した故・眞板雅文の作品のうち、水をめぐる作品の数々が伊那谷を眺望する美術館内外の空間に展開します。

眞板雅文が目にしたものが次々に素材となって、物質を超え、彫刻として現れる。初め写真や電灯などによるインスタレーション、次いで様々な場所で得たロープや布は呪術性さえ帯びた作品となり、やがて自然との関わりの中で、水にこだわった表現が続いた。急逝する2年前に自身のアトリエ周辺の水田を使った大がかりなインスタレーションは、谷を隔てた甲斐駒ヶ岳の姿さえ取り込んだものだった。今展では水にかかわる作品を美術館の内外で展示します。

眞板雅文(まいた・まさるみ) 彫刻/インスタレーション

1944年、中国東北部生まれ。69年、現代国際彫刻展(彫刻の森美術館)。75年、現代日本彫刻展(宇部市野彫刻美術館/山口)。76/86年、ヴェネチアビエンナーレ出展。94年、写真と彫刻の対話—安斎重男 眞板雅文展(神奈川県立近代美術館)。長野県富士見町の古民家をアトリエとする。95年、眞板雅文彫刻展(札幌彫刻美術館)。97年、眞板雅文展—音・竹水の関(下山芸術の森発声所美術館/富山)。99年、森に生きるかたち(箱根彫刻の森美術館)。2000年、越後妻有アートトリエンナーレ出展。03年、眞板雅文展 音・竹水の関(大原美術館)。07年、眞板雅文アトリエ展開催(富士見町)。09年逝去。13年、眞板雅文あめつちとの協奏(横須賀美術館)。



《水との協奏》(部分) 1994年 神奈川県立近代美術館
撮影:安斎重男

ギャラリートーク/
11月11日(土) 14:00~
(参加には入館料が必要)



11.9th - 30th (火・水は休館)

10:00 - 17:00 入館受付16:30まで

会場/アンフォルメル中川村美術館

入館料/400円 高校生以下無料

[水を知る]

water

塚田裕 | 自然と日常

この村の地形と人々の長い営みから生まれた棚田の稲ワラが、塚田裕の構想と大勢の協働によって、巨大な彫刻に変容し、美術館の丘に現れます。

中川村飯沼の棚田2.6ヘクタールでは地元の造り酒屋の酒米が作られています。その稲ワラを使う今展のインスタレーションは、壮大なプロジェクト。中川西小5年生が育てた稲のワラも使います。一年という時間の中で米を育てる大勢の人々がいてこそ、成り立つ作品です。ありふれた日々の、あたりまえのようにある物や物事は中川村のおおらかで親切な人々の気持ちや、植物が成長するサイクルの小さな奇跡の連続のようです。軽トラ25台分に及ぶワラは、この日常の先にあるものです。戦争の危機を迎えている今だからこそ、僕個人の思惑を超えて平和でなければ存在しえない、そんな意味を持つ彫刻となればよいと思っています。

塚田裕(つかた・ひろし) 絵画/インスタレーション

1966年、長野県生まれ。和光大学人文学部芸術学科油彩専攻卒業。2003~08年、眞板雅文(1944-2009)のアシスタントを務める。05年、個展(みゆき画廊/東京)。07、09、11年、シュライニング国際音楽祭(オーストリア)招聘展示。09~17年、山中湖国際音楽祭(山梨)招聘展示。11~19年、個展(画廊たん/東京、松本市美術館市民ギャラリー、Gallery Amano/山梨)。20年、シンビズム3(茅野市美術館)出展。21年、個展・INSIDE/OUTSIDE(原村八ヶ岳美術館/長野)。



《sky cloud》2020年 茅野市民館東広場



《326》(部分) 2020年 茅野市美術館

アーティストトーク/
11月11日(土) 13:00~
(参加には入館料が必要)



アンフォルメル中川村美術館

〒399-3801 長野県上伊那郡中川村大草2124

TEL.0265-88-2680 E-mail: museuminf@cek.ne.jp

開館時間/10:00-17:00 入館受付16:30まで (火・水は休館)

主催:アンフォルメル中川村美術館/中川村教育委員会 協力:有限会社ばな農園/中川西小学校 助成:長野県地域発元気づくり支援金活用事業

入館割引券

会期中にこのチラシをお持ちになってご来館いただくと、お一人様につき入館料を100円引きいたします。